

# 第65回 ISO/TMB (技術管理評議会)報告

経済産業省 産業技術環境局  
国際標準課長 (ISO/TMBメンバー)  
福田 泰和

平成28年4月

## 目次

- 1. ～ 5. TMB横断的業務
  - 6. ～ 9. 分野横断的標準化案件
  - 10. ～ 12. 個別TC/SC案件
- (参考) TMBアクションプラン2016

## 1. 任務

- ISO規格作成に関する管理事務的事項
  - ✓ TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等
- ISO規格作成に関する戦略的事項
  - ✓ TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

## 2. メンバー

- TMB議長: Elisabeth Stampfl-Balaha (オーストリア)
- TMBメンバー (15名) :  
Steve Cornish (米), Amanda Richardson (英), Bohnsack, Ulrike (独), Alain Costes (仏), 福田 (日), Chenguang Guo (中), Ms. Beskow, Cecilia (スウェーデン), Urs Fischer (スイス), Susanna Vahtila (フィンランド), Heleen Temple (南ア), Claudio Guerreiro (ブラジル), Adrian O'Connell (豪), Ridzwan Kasim (マレーシア), Zazhigalkin, Alexander(ロシア), CHUN, JIN SU(韓)
- ISO中央事務局 :  
事務局次長 : Kevin Mckinley (2015年8月から事務局長代理),  
TMB事務局 : Clivio Sophie, Belinda Cleffland, Mikaela Arvonen

2

## 1. 規格開発における透明性、コミュニケーションに関するポリシー文書及びソーシャル・メディア・ガイドラインの承認 <TMB Resolutions 16,17/2016>

- 昨今、ISO議長、国際幹事、ISOメンバー等が、外部から情報提供を求められる機会が増大。そのため、外部とのコミュニケーションに関する統一的な方針を明確化。

### 【ガイドラインの内容】

- ✓ P、Oメンバーの情報は開示可。エキスパートの情報は開示不可。ただし、どのような分野のステークホルダーがWGに参加しているかは開示可。エキスパートを指名したISOメンバーの判断により、当該エキスパートの情報を開示することは妨げない。
- ✓ 投票結果の採否は開示可。賛成、反対票の数、割合等の情報は開示不可。ISOメンバーの判断により、当該国がどのように投票したかについて情報を開示することは妨げない。
- ✓ 委員会、WG作業文書、議事録等は開示不可。委員会の決議は開示可。
- ✓ 委員会の会議日程、委員会の公式見解等は開示可。

3

## 2. エネルギー・マネジメント(TC 242)と省エネ(TC 257)を統合 新TC 301の設置を承認 <TMB Resolution 12及び13/2016>

- 新TC301の設置を承認するも、3年後に組織が機能しているか見直す予定。

【ISO専門業務の調整と一貫性に関するタスクフォースのレポート（昨年9月のTMB会合で承認済）のポイント】

- ✓ ISOにおけるシステム・アプローチとは、
  - セクターを幅広く包有する専門委員会で戦略的アドバイスが必要な場合、TMBは Strategic Advisory Group (SAG)を設置することができる。TMBは（IECのように）特別の新たな体制と手続きを作る必要はなく、既存の体制と手続きで対応可。
- ✓ 専門委員会の統合のあり方
  - 慎重で明確な方向性を示すことが必要。専門委員会の特別な手続き「committee-specific procedures」は、一般的には推奨されていないが、専門委員会統合の際、TMBは柔軟に対応。

4

## 3. ISO/IEC専門業務用指針 第1部・補足指針、及び第2部の改訂版を 2016年5月1日に発行予定 <TMB Resolutions 31～43/2016>

【第1部・補足指針の改訂ポイント】

- ✓ ISO規格の定期見直し(Systematic Review)におけるPメンバーの投票の義務化
- ✓ 規格の技術内容に影響を与えないマイナー改訂は、改訂版のForewordにその旨明記
- ✓ 議長任期の最後一年間に議長見習い（Chair elect）を置くことが可能
- ✓ 議長の最大9年の任期中何回でも再任可能
- ✓ 投票期間を何ヶ月ではなく何週間に変更（IECと整合させるため）
- ✓ 新規項目提案（NP）の投票の際、従来通り反対票のみ理由を付すとのルールに回帰
- ✓ NPは書面審議にて承認するとのルールを恒久化

【第2部改訂ポイント】

- ✓ 文章表現を簡素化、重複を排除し、より整理された文書構成にすることにより、ISO/IEC規格作成者にとってより使いやすい指針としたもの

5

#### 4. 規格廃止への異議申し立ての手順 <TMB Resolution 22/2016>

- JISCがクロム・マンガン規格の廃止に対して異議を申し立て、その後の適切なアクションにより廃止が撤回されたことをベンチマークとし、TMB事務局が提案した規格の廃止への異議申し立ての手順を了承。

##### 【具体的な手順】

- ✓ 特定のISO規格の廃止に反対するISOメンバーは、3ヶ月以内に少なくとも5カ国で当該規格が使われている証拠を提示し、それに基づきTMBが判断。

6

#### 5. 版の品質に関するタスクフォースの報告及びフィードバック・フォーカスグループの活動強化 <TMB Resolution 15/2016>

- 規格のエラーの状況をTMBとしてモニターし、来年2月のTMBに進捗状況を報告することを合意。
- ISO規格のQuality of edition の向上に資することを目的とした「フィードバック・フォーカスグループ」への参加メンバーを募集。日本からはJSAの専門家をメンバーとして登録。

7

## 6. ISOのサービス標準化戦略 <TMB Resolution 11/2016>

- ISOのサービス標準化戦略を承認。

サービス標準化に関するワークショップを6月13～14日にジュネーブで開催。WSの結果は、9月のTMBで議論され、サービス戦略に反映される予定。

【ISOのサービス標準化戦略のポイント】

- ✓ 世界のサービスの取引は20年で4倍に増加。公共サービスの民営化、サービスの広域供給、Webサービスの拡大の流れを受けて、サービス分野の規格開発のニーズが増大。
- ✓ 戦略の目指すべき方向は、①サービス分野の標準化におけるISOの見える化、②ISOメンバーが直面する課題の解決を支援、③サービス分野の国際標準化の潮流と市場の関心の理解の増進。
- ✓ サービスに関するISO規格は700以上。サービスそのものを規定した規格、サービスに必要なインフラの整備を支援する規格、マネジメントシステム規格等、横断的規格を含む。

8

## 7. マネジメントシステム規格の調整・一貫性のブレインストーミング <TMB Resolution 19/2015>

- マネジメントシステム規格（MSS）導入の目的、今後普及が見込まれるMSS、横断的なMSSとセクター別のMSSの統合的な適用のあり方、MSSの重複に関する見方、新規MSS提案の際のJustification study、Annex SLの有効性等議論。
- 議論の結果、TMBのタスクフォース設置を合意。米、英、独のTMBメンバーが中心となり、具体的なアクション・アイテムをとりまとめ、本年6月のTMB会合に提案予定。

9

## 8. スマート・シティに関するSAG（戦略諮問委員会）提言実施に関するTMBタスクフォースの報告と今後の活動 <TMB Resolution 18/2016>

- SAGスマート・シティの提言の実施に関するTMBタスクフォースの報告を了承。本タスクフォースを常設化して、ISO以外の標準化機関との連携強化を図っていくことで合意。常設のTMBスマートシティ・タスクフォースには、日、米、仏、独、蘭、スウェーデン、中、韓、露、南アフリカ、IEC事務局員が参加。
- 本年7月13日にシンガポールでISO/IEC/ITU共催のスマート・シティに関するフォーラムが開催予定。運輸、水、エネルギーとスマート・シティ、サイバーセキュリティ、等の議論を予定。

10

## 9. 気候変動調整委員会(CCCC)最終レポート <TMB Resolution 44/2016>

- 2013年に設置されたClimate Change Coordination Committee (CCCC)の最終レポートの提言を踏まえ、CCCCタスクフォースの設置を承認。
- CCCCタスクフォースは、現行のCCCCメンバーに加え、関係するTC/SCの議長にも参加の門戸を開き、拡大されたCCCCタスクフォースで改めて議長を選出することで合意。2017年2月のTMB会合で、当該タスクグループの活動状況をレビューし、必要に応じて任務を見直す予定。

### 【CCCCタスクフォースの任務】

- ✓ 関係するTC/SCの気候変動に関する規格開発の優先順位のアドバイス。
- ✓ ISO中央事務局、UNFCCC、関係する国際機関とのコミュニケーションをサポート、
- ✓ 気候変動の側面をISO規格開発でどのように考慮すべきかのガイドを作成等。

11

## 10. ISO/IEC 19794-5:2005（情報技術－バイOMETリクス・データ交換フォーマット）の統合復刻版の発行要請の承認 <TMB Resolution 14/2016>

- 当該規格は、eパスポートの読み取りに関する国際規格。2005年の発行後、追補2、正誤票4が出ており、今回、5番目の正誤票を出す必要が出て来たことを契機として、本規格を担当しているJTC1/SC37から、ICAO（国際民間航空機関）も支持しているとして、ユーザーの利便性の観点から2005年版を維持しつつ統合復刻版を発行するとの特例措置を要請。TMBは了承。

12

## 11. ISO 19011（マネジメントシステム監査のための指針）の改訂 <TMB Resolution 28/2016>

- ISO 19011は全てのMSSに適用されるスコープの広い指針。様々な分野のマネジメントシステム監査のエキスパートが結集して審議できる新PC(Project Committee)を設置することで合意。新PCは、CASCOとのJoint Working Groupとし、MSSに関係する多数のISOの委員会からの代表で構成。24ヶ月で改訂版を策定するよう要請。

13

## 12. ISOとSAE（米自動車技術会）との協定

- 米、独、仏の賛同を得て、協定のスコープを「TC22（自動車）及びその他関係するTCs」から「TC22（自動車）及びTC204（高度道路交通システム）」へ変更することを合意。
- JISCより、ISOとSAEの共同開発に際し、協定案に書かれていない詳細手続きは、ISOとSAEの関係する委員会が調整・合意することをTMB議事録に留めてほしいと要請し、TMB事務局は了承。

14

### 【参考】TMBアクションプラン2016

- 「TMBアクションプラン2016」には、10件のプロジェクトが挙がっている。その内、JISCが参加表明しているものは6件。  
（以下のプロジェクト中、1、2,6,7,9,10）

#### 【TMBアクションプラン2016】

- 1： 新業務に関する理事会戦略常設委員会とTMBとの共同タスクフォースの設置
- 2： 規格の経過年数の現状把握と規格の定期見直しのあり方
- 3： 規格開発のパフォーマンスとTC/SCのプロジェクト・マネジメントの向上
- 4： 規格開発における調整・一貫性
- 5： 規格開発プロセス中の透明性・文書の維持
- 6： ISO, IEC, ITU間の調整
- 7： 利害関係者の参画
- 8： 遠隔参加
- 9： 将来の規格開発環境の検討
- 10： サービス分野の標準化

15



# 御清聴ありがとうございました

経済産業省 ～「標準化・認証」の紹介ページ

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/kijyun/index.html>

日本工業標準調査会ホームページ

<http://www.jisc.go.jp/>